

みなさまの大阪ガス

第203期 報告書

2020年4月1日～2021年3月31日



株主の皆様へ



株主の皆様には、平素から、当社グループの事業運営に格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは、長期経営ビジョン2030に沿って、時代を超えて選ばれ続ける革新的なエネルギー&サービスカンパニーとなることを目指しております。本年1月には「カーボンニュートラルビジョン」を策定し、当社グループの事業活動におけるカーボンニュートラルの実現を目指しております。また、本年3月に策定した新中期経営計画2023では、持続可能な社会の実現に向け、社会課題の解決に資する価値を生み出す企業グループとして、「ミライ価値」を創造し、成長し続けていくことを目指しております。

新型コロナウイルス感染症への対応につきましては、お客さまや従業員の安全にも十分に配慮し、引き続きエネルギーの安定供給を継続してまいります。

経営環境が大きく変化し続ける中、お客さまへの提供価値の最大化を図り、Daigasグループ一丸となって、引き続き積極的かつ着実に事業活動を進めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2021年6月

代表取締役社長 **藤原正隆**

目次

事業報告

I 企業集団の現況に関する事項	2
II 役員に関する事項	13
III 株式に関する事項	22
IV 会計監査人の状況	23
V 業務の適正を確保するための体制に関する事項	24

連結計算書類

連結貸借対照表	28
連結損益計算書	29

計算書類

貸借対照表	30
損益計算書	31

監査報告

連結計算書類に係る	
会計監査人の会計監査報告	32
会計監査人の会計監査報告	34
監査役会の監査報告	36

(ご参考)

Daigasグループ中期経営計画2023

「Creating Value for a Sustainable Future」の概要	37
株式伝言板	39

■連結計算書類の連結株主資本等変動計算書および連結注記表ならびに計算書類の株主資本等変動計算書および個別注記表につきましては、法令および定款の定めに基づき、当社ウェブサイト(<https://www.osakagas.co.jp/company/ir/stock/inform/index.html>)に掲載しております。なお、会計監査人および監査役が監査をした連結計算書類および計算書類は、本報告書に記載の各書類のほか、上記の当社ウェブサイトに掲載の各書類であります。

I | 企業集団の現況に関する事項

① 事業の経過および成果

当期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大により大幅に落ち込みましたが、下期には、世界経済の回復を受けて製造業を中心に輸出や生産が伸長するなど、一部に持ち直しの動きが見られました。

こうした経営環境のもと、当社グループは、「暮らしとビジネスの“さらなる進化”のお役に立つ企業グループ」となることを目指し、積極的に事業活動を展開してまいりました。

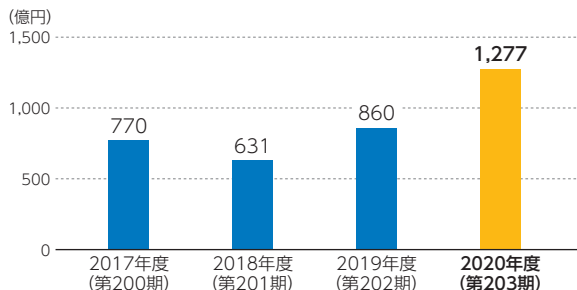
当期における連結売上高は、電力事業で電力販売量が増加したものの、ガス事業で原料費調整制度に基づき販売単価が低めに推移したことなどにより、前期に比べて0.3%減の1兆3,641億円となりました。

(グラフ1)

連結経常利益は、フリーポートLNGプロジェクトや米国上流事業等における海外エネルギー事業の増益に加え、ガス事業や電力事業の増益等により、前期に比べて48.5%増の1,277億円となりました。

(グラフ2)

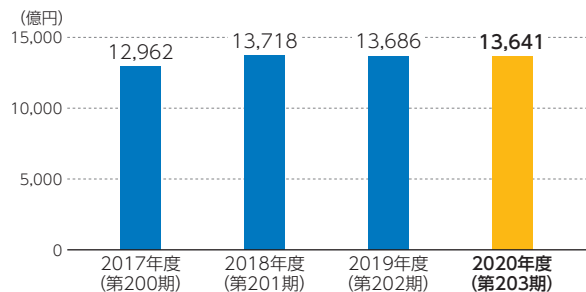
グラフ 2 連結経常利益の推移



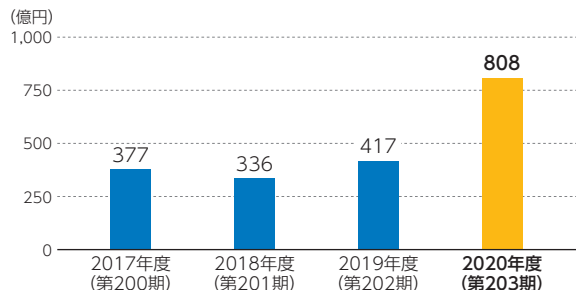
親会社株主に帰属する当期純利益は、前期に比べて93.5%増の808億円となりました。

(グラフ3)

グラフ 1 連結売上高の推移



グラフ 3 親会社株主に帰属する当期純利益の推移



以下、当社グループの事業部門別（セグメント別）の概況をご報告いたします。

1 国内エネルギー・ガス

売上高は、前期に比べて6.2%減の9,160億円となりました。

家庭用の都市ガス販売量は、冬場の気温・水温が低く推移した影響等により、前期に比べて3.4%増の19億4千万m³となりました。

業務用等の都市ガス販売量は、新型コロナウイルス感染症の影響によるお客さま設備の稼働減少等により、前期に比べて4.9%減の52億5千3百万m³となりました。

これらの結果、都市ガス販売量は、前期に比べて2.8%減の71億5千7百万m³となりました。

都市ガス供給件数は、当期末時点で514万4千件となりました。

家庭用のガス機器・サービスにつきましては、給湯、暖房、調理等の機器・設備に加え、家庭用燃料電池コージェネレーションシステム「エネファーム」等の商品の開発および販売拡大に努めるとともに、ガス機器・水まわりの修理等や防災・防犯に関する「住ミカタ・サービス」等の各種サービスの提供に努めました。

2020年4月、「エネファームtype S」の新商品を発売いたしました。従来の機種に比べて、発電効率の向上と小型化を実現するとともに、スマートフォンの専用アプリと連動させてお使いいただけるIoTを活用した機能を拡充しております。同年12月には、「2020年度省エネ大賞（製品・ビジネスモデル部門）」の省エネルギーセンター会長賞を受賞いたしました。停電時も電気と熱を供給する自立運転機能を備えた機種も用意しております。

また、本年3月、会員専用サイト「マイ大阪ガス」^(※)をリニューアルし、ポイント制度の変更や防災情報のお知らせサービスの拡充を行うなど、内容の充実に努めました。

^(※) ポイント制度や、ガス・電気の使用量や料金を確認できる機能等の各種サービスをご利用いただける会員制のサイト。



DaigasグループブランドのPR



ガスコンロ「クラスSプレミア」



「エネファームtype S」

業務用のガス機器・サービスにつきましては、コージェエネルギーシステム、冷暖房システム、厨房機器、ボイラ、工業炉、バーナ等の商品の開発および販売拡大に努めるとともに、エンジニアリング力を活用し、お客さまのニーズに応じた高付加価値のソリューションの提供に努めました。

2020年4月、冷暖房システムの新商品「GHP XAIR（エグゼア）Ⅲ」を発売いたしました。従来の機種に比べて、年間エネルギー効率を約10%向上させるとともに、設置スペースの低減や軽量化を実現しております。同年12月には、「2020年度省エネ大賞（製品・ビジネスモデル部門）」の資源エネルギー庁長官賞を受賞いたしました。

脱炭素社会の実現に向けて、法人のお客さま向けに、CO₂クレジットを活用したカーボンニュートラルな都市ガス^(※1)の販売を決定し、本年4月より受付を開始いたしました。

また、都市ガスの脱炭素化の有望技術として期待される高効率なメタネーション技術^(※2)の基礎研究に取り組んでおり、当該技術の実現のキーとなる新型SOECの実用サイズセル（基板）の試作に国内で初めて成功いたしました。2030年頃に技術確立することを目指し、今後も研究開発を推進してまいります。

（※1）天然ガスの採掘、輸送、製造、燃焼の各工程で発生するCO₂をCO₂クレジットで相殺したLNGを活用するもの。

（※2）SOEC（固体酸化物を用いた電気分解素子）を用いて、再生可能エネルギー電力で水蒸気をCO₂とともに電気分解することにより水素とCOを生成し、さらに触媒反応によりメタンを合成する技術。

安定供給・保安の確保につきましては、天然ガスの調達先の多様化、AI技術活用も含めた製造・供給設備の保全と計画的な改修、安全機能を備えたガス機器の普及促進、新型コロナウイルス感染症対策等に継続的に取り組みました。

また、2020年9月、感染症拡大下の地震発生を想定し、感染症対策を講じた災害対応を確認する「全社総合防災訓練」を実施するなど、引き続き、地震対策・津波対策に取り組みました。



「GHP XAIR（エグゼア）Ⅲ」



高効率なメタネーション技術のイメージ図



「全社総合防災訓練」の様子

2 国内エネルギー・電力

売上高は、前期に比べて22.7%増の2,472億円となりました。

電力販売量は、前期に比べて22.3%増の161億3千3百万kWhとなりました。

低圧電気需給契約に基づく供給件数は、当期末時点で151万件となりました。

本年3月、環境に配慮した電気をご希望のお客さま向けの料金メニュー「スタイルプランE-ZERO」に新たなプランを追加し、受付を開始いたしました。また、脱炭素の推進に取り組む法人のお客さま向けの新料金メニュー「D-Green（ディーグリーン）」シリーズを設定し、本年4月より受付を開始するなど、料金メニューの拡充と電気の販売拡大に努めました。

福島県相馬郡新地町における福島ガス発電株式会社（出資比率20%）の天然ガス火力発電所（発電容量118万kW）と、千葉県市原市における市原バイオマス発電株式会社（出資比率39%）のバイオマス発電所（発電容量約5万kW）が、それぞれ営業運転を開始いたしました。

また、青森県上北郡野辺地町における陸上風力発電事業（発電容量約4万kW、2022年3月竣工予定。匿名組合出資比率39%）や、愛知県田原市におけるバイオマス火力発電事業（発電容量約7万kW、2024年10月竣工予定。出資比率25%）等に参画いたしました。

これらに加え、株式会社ウエストホールディングスとの間で、同社が開発する小規模太陽光発電設備から20万kW分の再生可能エネルギーと環境価値を長期にわたり調達する契約を締結するなど、電源（天然ガス火力発電・再生可能エネルギー発電）の拡大に努めました。

この結果、海外エネルギーセグメントに含まれる海外分も含め、再生可能エネルギー電源の普及貢献量は、当期末時点で約105万kWとなりました。



電力小売のPR



市原バイオマス発電所（千葉県）



株式会社ウエストホールディングスが
開発する小規模太陽光発電設備

3 海外エネルギー

売上高は、前期に比べて13.0%増の691億円となりました。

米国テキサス州でシェールガス生産開発事業を行うSabine Oil & Gas Corporation（出資比率100%）は、ガスの生産実績が計画を上回るなど、業績は順調に推移いたしました。

2020年8月、米国イリノイ州において、スリーリバーズ天然ガス火力発電所（発電容量125万kW、2023年5月商業運転開始予定）を運営する事業会社の持分15%を取得し、発電事業に参画いたしました。

本年3月、双日株式会社と共同出資するベトナム国現地法人 Sojitz Osaka Gas Energy Company Ltd.（出資比率49%）は、エースコック株式会社のベトナム国現地法人との間で、2か所の食品工場の燃料を石炭から天然ガスへ転換する天然ガス供給契約を締結いたしました。



Sabine Oil & Gas Corporationのシェールガス鉱区（米国テキサス州）



スリーリバーズ天然ガス火力発電所（米国イリノイ州）

4 ライフ&ビジネス ソリューション

売上高は、前期に比べて1.3%減の2,165億円となりました。

都市開発事業を展開する大阪ガス都市開発株式会社は、当期中に「アーバネックス秋葉原EASTⅢ」等の3物件の賃貸マンションを取得するとともに、大規模賃貸オフィスビル「KRP10号館」を竣工するなど、資産の拡充に努めました。また、「シーズ大手前」等の3物件の分譲マンションが竣工いたしました。

情報ソリューション事業を展開する株式会社オーグス総研は、企業情報システムのコンサルティング・設計・開発・運用や、データセンター・クラウドサービス等、総合的なITサービスの提供に努めました。

材料ソリューション事業を展開する大阪ガスケミカル株式会社は、石炭化学技術等を基盤として、ファイン材料、炭素材製品、保存剤等、付加価値の高い材料等の開発および販売拡大に努めました。



KRP10号館（京都府）

事業部門別 売上高・セグメント利益

	国内エネルギー・ガス	国内エネルギー・電力	海外エネルギー	ライフ&ビジネスソリューション
売上高 (億円)	9,160	2,472	691	2,165
前期比 (%)	△6.2	+22.7	+13.0	△1.3
構成比 (%)	63.2	17.1	4.8	14.9
セグメント利益 (億円)	653	150	221	192
前期比 (%)	+22.8	+91.4	+170.9	△2.2
構成比 (%)	53.7	12.3	18.2	15.8

(注) 事業部門別の売上高・セグメント利益には、事業部門間の内部取引に係る金額を含んでおります。なお、セグメント利益には、持分法による投資損益を含んでおります。

2020年4月1日付の組織再編に伴い、従来「国内エネルギー・電力」セグメントに含めていた連結子会社1社を、当期より「国内エネルギー・ガス」セグメントに含めております。なお、本事業報告における前期比は、この変更を反映して算定した数値に基づき記載しております。

② 主要な事業内容 (2021年3月31日現在)

事業部門	主要な事業内容
国内エネルギー・ガス	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市ガスの製造・供給および販売 ● ガス機器販売 ● ガス配管工事 ● LNG販売 ● LPG販売 ● 産業ガス販売
国内エネルギー・電力	<ul style="list-style-type: none"> ● 発電および電気の販売
海外エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ● 天然ガスおよび石油等に関する開発・投資 ● エネルギー供給 ● LNG輸送
ライフ&ビジネスソリューション	<ul style="list-style-type: none"> ● 不動産の開発および賃貸 ● 情報処理サービス ● ファイン材料および炭素材製品の販売

③ 設備投資の状況

設備投資額につきましては、1,894億円となりました。

当期中に当社のガス本支管は186km増加し、当期末の延長は51,383kmとなりました。

また、ガス製造・供給設備における安定供給と保安の確保を目的とした工事や、当社子会社による天然ガス開発・生産事業に関する設備工事、発電所の建設工事等を実施いたしました。

④ 資金調達の状況

長期借入金につきましては、当期中に359億円を借り入れました。また、社債^(※)につきましては、当期中に劣後特約付社債750億円(額面)を発行いたしました。

なお、長期借入金につきましては、当期中に445億円を返済いたしました。また、社債^(※)につきましては、当期中に300億円を償還いたしました。

(※) 短期社債を含んでおりません。

⑤ 対処すべき課題

1. 経営方針

当社グループは、「暮らしとビジネスの“さらなる進化”のお役に立つ企業グループ」として、天然ガス・電力・LPGなどのエネルギーとその周辺サービスや、都市開発・材料・情報等のエネルギー以外の様々な商品・サービスを通じて、「お客さま価値」「社会価値」「株主さま価値」「従業員価値」の創造を目指します。そのためには、持続的な成長を実現することが最大の経営課題であると認識し、2017年に長期経営ビジョン2030「Going Forward Beyond Borders」を、本年3月には新中期経営計画2023「Creating Value for a Sustainable Future」を策定いたしました。

当社グループは、本ビジョン・計画に沿って、持続可能な社会の実現に貢献し、時代を超えて選ばれ続ける革新的なエネルギー&サービスカンパニーとなることを目指し、電力・ガス小売全面自由化等の政策動向にも的確に対応しながら、積極的に事業活動を進めてまいります。

さらに、本年1月に策定した「カーボンニュートラルビジョン」に沿って、メタネーション等の技術開発を軸とした都市ガスの脱炭素化と、再生可能エネルギーを軸とした電源の脱炭素化によって、当社グループの事業活動におけるカーボンニュートラルの実現を目指した取り組みを進めてまいります。その実現の過程においても引き続き、確実なCO2排出削減の取り組みを行い、低炭素社会の実現に貢献してまいります。

2. 重点課題

中期経営計画2023では「ミライ価値の共創」「企業グループとしてのステージ向上」を重点戦略とし、それぞれの取り組みを通じた社会課題の解決に資する価値創造と、「国内エネルギー事業」「海外エネルギー事業」「ライフ&ビジネス ソリューション事業」を3つの柱とした、将来の経営環境の変化に対応するポートフォリオ経営の実践を目指しております。それらの実現に向け、以下のとおり、課題に取り組んでまいります。

(1) 国内・海外エネルギー事業

① 安定的、経済的な原燃料調達、上流（開発・生産）・液化事業の推進

多数の生産者から分散して調達することにより、天然ガス等の原燃料の安定確保に努めるとともに、契約価格指標の多様化等により、市場競争力を高める原燃料調達を目指します。

また、天然ガス等の安定調達と収益獲得のため、現在取り組んでいる液化事業・ガス田等のプロジェクトを着実に推進してまいります。

②競争力のある電源の確保および再生可能エネルギーの普及拡大

国内外での新規電源の開発、卸電力市場からの調達等を通じて、競争力のある電源ポートフォリオの構築を進めます。特に再生可能エネルギーは、国内での開発の推進や調達先の拡大を進めるとともに、海外での事業参画強化を図ります。

③安定供給と保安の確保

ガス製造・供給設備、発電設備等の維持・増強・改修、地震・津波等の自然災害対策および新型コロナウイルス等による感染症の流行等の事態への対策等、安定供給とレジリエンスの向上に継続的に取り組んでまいります。また、万一のガス漏れ等の緊急時への対応を引き続き行い、お客さま先の保安の確保に努めてまいります。

④国内外におけるマーケットビジネスの拡大

燃料電池等のガスコージェネレーションシステムやガス冷暖房の普及、電力・LPG販売の拡大、分散型電源と再生可能エネルギーを組み合わせたエネルギーネットワークの構築等を通じて、低・脱炭素化やレジリエンスの向上といった社会課題の解決に貢献してまいります。また、デジタル技術等を起点に、住ミカタ・サービスなどのライフサポートサービス、建物・設備の管理やメンテナンス、空調・換気、水処理、省エネルギーや設備稼働状況等の見える化など、エネルギー周辺サービスを拡充するとともに、お客さまのライフスタイルやビジネスニーズに応じたエネルギー料金メニューも総合的に提供することで、お客さまの快適な生活の実現やビジネスの発展に貢献してまいります。さらに、各地のエネルギー事業者を含めた様々なパートナーとの連携等を通じ、国内で幅広くマーケットビジネスを拡大してまいります。

海外でも、ガス・電力・エネルギーサービス事業の運営や新規案件の開発等に着実に取り組んでまいります。

⑤エネルギーインフラ開発・エンジニアリング事業の拡大

国内外において、LNG基地等の新規エネルギーインフラ開発を拡大いたします。また、LNGの導入等を検討しているお客さまに対し、これまでの事業展開で培ったノウハウを活かし、ニーズに応じたソリューションを提案することでエンジニアリング事業を拡大してまいります。

⑥公正で効率的なガス導管事業の推進

託送供給の中立性・透明性の確保や利便性の向上を図りつつ、地域社会や需要家のニーズに応えながら、都市ガス需要の維持・拡大に継続的に取り組んでまいります。

(2) ライフ&ビジネス ソリューション事業

エネルギー事業で培った技術と知見を基盤に、都市開発・材料・情報等の事業において、固有の強みを活かした商品・サービスを提供することで、国内外のお客さまの快適・便利・健康の実現をサポートし、お客さまの豊かな暮らしやビジネスの発展に貢献してまいります。

(3) 経営基盤

①ESG（環境・社会・ガバナンス）に配慮した経営の実践

「Daigasグループ企業行動憲章」に基づき、ESGに配慮した経営を実践し、国内外における当社グループのサプライチェーンに関わる皆様とともに、お客さまや社会からのさらなる信頼獲得に努めてまいります。

具体的には、天然ガスへの燃料転換、高効率な設備や再生可能エネルギーの導入等により、お客さま先や自らの事業活動におけるCO2排出削減の取り組みを一層拡大するとともに、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の提言を踏まえて、脱炭素化への取り組みに関する情報開示の充実に取り組んでまいります。また、国際規範に則った人権や労働・安全衛生への取り組みや、ダイバーシティ&インクルージョン、情報セキュリティ対策、ガバナンス体制の構築等を推進いたします。

②イノベーション・技術開発・デジタルトランスフォーメーションの推進

IoTやAIなど、最先端のデジタル技術や当社グループ内外のアイデアを活用したサービスの提供による新たな価値創造と、社内での業務改革・システム刷新による生産性の向上に取り組んでまいります。

また、燃料電池をはじめとするガス機器・設備のさらなる高効率化とコストダウン、新たな材料や情報処理、温暖化対策等に関する技術開発を推進いたします。

③人材・組織の強化

持続的な成長の実現に向け、人材の多様性を高め、新しい価値を生み出せる人材の採用・育成とチャレンジを促す組織風土の醸成を進めてまいります。また、健康で強靱な当社グループであり続けるために、生産性が高く、創造性豊かな働き方を促進する働き方改革に一層積極的に取り組んでまいります。

3. おわりに

グループの内部統制システムの運用状況の確認および評価を継続的に行い、所要の措置を講じることにより、実効性の高い内部統制を行ってまいります。これらの仕組みのもと、以上の課題に対処するとともに、「Daigasグループ企業理念」を実践し、持続的成長に向けて不断の努力を続けてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

⑥ 財産および損益の状況

区分	2017年度 第200期	2018年度 第201期	2019年度 第202期	2020年度 第203期 (当期)
売上高 (百万円)	1,296,238	1,371,863	1,368,689	1,364,106
経常利益 (百万円)	77,087	63,103	86,018	127,752
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	37,724	33,601	41,788	80,857
1株当たり当期 純利益 (※1) (円)	90.71	80.80	100.50	194.48
総資産 (※2) (百万円)	1,897,230	2,029,722	2,140,482	2,313,357
純資産 (百万円)	1,028,799	1,035,044	1,027,667	1,114,597

(※1) 2017年度(第200期)から2020年度(第203期)までの「1株当たり当期純利益」は、いずれも2017年10月1日付の株式併合が2017年度(第200期)の期首に行われたと仮定して算定しております。

(※2) 「税効果会計に係る会計基準」の一部改正(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を第201期から適用しており、第200期についても、当該会計基準を遡って適用し算定しております。

⑦ 主要な営業所および工場ならびに従業員の状況 (2021年3月31日現在)

(1) 主要な営業所等の状況

当 社	本 社	本社〔大阪府〕
	事 業 所 (※1)	大阪事業所〔大阪府〕
		南部事業所〔大阪府〕
		北部事業所〔大阪府〕
		東部事業所〔大阪府〕
兵庫事業所〔兵庫県〕		
LNG基地	京滋事業所〔京都府〕	
研 究 所	泉北製造所〔大阪府〕	
	姫路製造所〔兵庫県〕	
子会社 (※2)	大阪ガス都市開発株式会社〔大阪府〕	
	株式会社オージス総研〔大阪府〕	
	大阪ガスケミカル株式会社〔大阪府〕	
	大阪ガスマーケティング株式会社〔大阪府〕	
	Daigasエナジー株式会社〔大阪府〕	
	Daigasガスアンドパワーソリューション株式会社〔大阪府〕	

(2) 従業員の状況

事業部門	従業員数 (名) (※3)
国内エネルギー・ガス	11,146
国内エネルギー・電力	268
海外エネルギー	292
ライフ&ビジネスソリューション	9,235
合 計	20,941

(※1) ネットワークカンパニーは、それぞれの事業所に地域導管部が所在しております。エナジーソリューション事業部は、業務別組織で事業活動を展開しております。

(※2) 重要な子会社の本社所在地を主要な営業所としております。

(※3) 従業員数は、就業人員数であります。

⑧ 重要な子会社の状況 (2021年3月31日現在)

当社グループでは、関係会社のうち、エネルギー分野その他の各事業分野において中心的役割を担い、当社グループの経営の基本単位として位置付ける関係会社を中核会社および基盤会社としており、これらを重要な子会社としております。

区分	会社名	資本金 (百万円)	持株比率 (%)	主要な事業内容
中核会社	大阪ガス都市開発株式会社	1,570	100	不動産の開発・賃貸・管理・分譲
	株式会社オーガス総研	440	100	ソフトウェア開発、コンピュータによる情報処理サービス
	大阪ガスケミカル株式会社	14,231	100	ファイン材料および炭素材製品等の製造・販売
基盤会社	大阪ガスマーケティング株式会社	100	100	家庭用向けガス・電気の販売およびガス機器販売・保守等、リフォーム
	Daigas エナジー株式会社	310	100	業務用等向けガス・電気の販売およびガス機器販売・保守等、エネルギーサービス、LNG販売、LPG販売、熱供給
	Daigas ガスアンドパワーソリューション株式会社	100	100	ガス製造所・発電所のオペレーション・メンテナンス、発電および電気の販売、エンジニアリング

(注) 上記の重要な子会社6社を含む連結子会社は、154社であります。

なお、本年4月1日以降、資源・海外エネルギー分野において中心的役割を担い、当社グループの経営の基本単位として位置付ける関係会社を海外地域統括会社として新たに設定し、中核会社および基盤会社に加えて、次の海外地域統括会社（本社所在地は、米国テキサス州）を重要な子会社としております。

会社名	資本金 (米ドル)	持株比率 (%)	主要な事業内容
Osaka Gas USA Corporation	1	100	北米における石油および天然ガスならびにエネルギー供給事業に関する投資等

⑨ 主要な借入先 (2021年3月31日現在)

借入先	借入金残高 (百万円)
株式会社りそな銀行	76,827
株式会社三菱UFJ銀行	38,326
株式会社日本政策投資銀行	27,959
株式会社国際協力銀行	24,622
株式会社京都銀行	17,035

II | 役員に関する事項

① 取締役および監査役の氏名等 (2021年3月31日現在)

地位	氏名	担当	重要な兼職の状況
取締役会長	本 庄 武 宏		大阪府公安委員会委員 大阪ガス都市開発株式会社取締役
代表取締役社長 社長執行役員	藤 原 正 隆		株式会社オーガス総研取締役 大阪ガスケミカル株式会社取締役
代表取締役 副社長執行役員	宮 川 正	技術統括 ガス製造・発電・エンジニアリング事業部長 イノベーション本部長 担当：地域共創部門 東京支社 監査部 地区支配人 統括地区支配人 分掌：株式会社オーガス総研 大阪ガスケミカル株式会社	株式会社オーガス総研取締役 大阪ガスケミカル株式会社取締役
代表取締役 副社長執行役員	松 井 毅	ESG推進統括 経営企画本部長 分掌：資源・海外事業部 ネットワークカンパニー 秘書部 広報部 人事部 総務部 資材部	
代表取締役 副社長執行役員	田 坂 隆 之	サービス統括 エネルギーソリューション事業部長 分掌：大阪ガス都市開発株式会社	大阪ガス都市開発株式会社取締役
取締役	尾 崎 裕	相談役	大阪商工会議所会頭 日本放送協会経営委員会委員 塩野義製薬株式会社取締役
取締役	宮 原 秀 夫		大阪大学大学院情報科学研究科招聘教授 一般社団法人ナレッジキャピタル代表理事 西日本旅客鉄道株式会社取締役
取締役	村 尾 和 俊		西日本電信電話株式会社相談役 公益社団法人関西経済連合会副会長 京阪ホールディングス株式会社取締役

地位	氏名	担当	重要な兼職の状況
取締役	来島達夫		西日本旅客鉄道株式会社取締役副会長
監査役(常勤)	藤原敏正		
監査役(常勤)	米山久一		
監査役	木村陽子		公立大学法人奈良県立大学理事
監査役	八田英二		学校法人同志社総長、同理事長 公益財団法人日本学生野球協会会長 公益財団法人日本高等学校野球連盟会長 一般社団法人大学監査協会副会長
監査役	佐々木茂美		一般財団法人日本法律家協会近畿支部理事

- (注) 1. 「担当」欄の分掌とは、特定の本部、部門、組織、職位または中核会社の業務について、経営上の重要度および影響度等を勘案してモニタリング、助言・勧告を行うことであります。
2. 取締役 宮原秀夫、村尾和俊、来島達夫は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
3. 監査役 木村陽子、八田英二、佐々木茂美は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
4. 当社は、社外取締役および社外監査役(社外役員)全員を、上場している証券取引所の定めに基づき独立役員として届け出ております。
5. 各社外役員の「重要な兼職の状況」欄に記載の法人等と当社との間には、記載すべき関係はありません。
6. 取締役 来島達夫および監査役 米山久一は、2020年6月26日開催の第202回定時株主総会において新たに選任され、同日就任いたしました。
7. 取締役 尾崎裕の「重要な兼職の状況」欄に記載の塩野義製薬株式会社取締役、取締役 宮原秀夫の同欄に記載の西日本旅客鉄道株式会社取締役、取締役 村尾和俊の同欄に記載の京阪ホールディングス株式会社取締役は、社外取締役であります。

(注) 8. 当期中の取締役の地位および担当の異動

取締役（社外取締役を除きます。）の地位および担当は、本年1月1日、一部変更となりました。変更前の地位および担当は、以下のとおりであります。なお、変更後の地位および担当は、前記の2021年3月31日現在の地位および担当と同じであります。

地位	氏名	担当
代表取締役会長	尾 崎 裕	
代表取締役社長 社長執行役員	本 荘 武 宏	
代 表 取 締 役 副社長執行役員	藤 原 正 隆	サービス統括 技術統括 エナジーソリューション事業部長 イノベーション本部長 分掌：大阪ガス都市開発株式会社 株式会社オーガス総研 大阪ガスケミカル株式会社
代 表 取 締 役 副社長執行役員	宮 川 正	ガス製造・発電・エンジニアリング事業部長 担当：地域共創部門 東京支社 監査部 地区支配人 統括地区支配人
代 表 取 締 役 副社長執行役員	松 井 毅	ESG推進統括 分掌：資源・海外事業部 ネットワークカンパニー 経営企画本部 秘書部 広報部 人事部 総務部 資材部
取 締 役 常務執行役員	田 坂 隆 之	経営企画本部長

(注) 9. 当期中の重要な兼職の状況の異動

取締役 藤原正隆は、2020年12月31日、大阪ガス都市開発株式会社取締役を退任いたしました。

取締役 宮川正は、本年1月5日、株式会社オーガス総研取締役および大阪ガスケミカル株式会社取締役に就任いたしました。

取締役 田坂隆之は、2020年4月1日、大阪臨海熱供給株式会社代表取締役社長を退任いたしました。

取締役 田坂隆之は、本年1月5日、大阪ガス都市開発株式会社取締役に就任いたしました。

取締役 尾崎裕は、2020年12月31日、株式会社オーガス総研取締役および大阪ガスケミカル株式会社取締役を退任いたしました。

取締役 尾崎裕は、本年2月28日、朝日放送グループホールディングス株式会社取締役を退任いたしました。

取締役 尾崎裕は、本年3月1日、日本放送協会経営委員会委員に就任いたしました。

取締役 村尾和俊は、2020年6月19日、田辺三菱製菓株式会社取締役を退任いたしました。

(注) 10. 当期末後の取締役の担当の異動

取締役の担当は、本年4月1日、以下のとおりとなりました。

地位	氏名	担当
取締役会長	本 荘 武 宏	
代表取締役社長 社長執行役員	藤 原 正 隆	
代表取締役 副社長執行役員	宮 川 正	技術統括 イノベーション本部長 担当：東京支社 監査部 統括支配人 分掌：ガス製造・発電・エンジニアリング事業部 株式会社オージス総研 大阪ガスケミカル株式会社
代表取締役 副社長執行役員	松 井 毅	保安統括 ESG推進統括 経営企画本部長 分掌：資源・海外事業部 ネットワークカンパニー 秘書部 広報部 人事部 総務部 資材部
代表取締役 副社長執行役員	田 坂 隆 之	サービス統括 エナジーソリューション事業部長 分掌：大阪ガス都市開発株式会社
取締役	尾 崎 裕	相談役
取締役	宮 原 秀 夫	
取締役	村 尾 和 俊	
取締役	来 島 達 夫	

(注) 11. 当期末後の重要な兼職の状況の異動

取締役 本荘武宏は、本年4月1日、一般社団法人日本ガス協会会長に就任いたしました。

監査役 佐々木茂美は、本年5月1日、一般財団法人日本法律家協会近畿支部支部長に就任いたしました。

② 補償契約に関する事項

当社は、前記「Ⅱ①取締役および監査役の氏名等」に記載の取締役および監査役との間で、会社法第430条の2第1項第1号の費用および同項第2号の損失を法令の定める範囲内で補償することを目的とする補償契約を締結しております。

当社は、当該補償契約によって役員職務の執行の適正性が損なわれないようにするため、当該補償契約において主に以下の事項を定めております。

- ・一事象当たりの補償上限額
- ・法令に違反することを認識しながら職務を執行したことにより発生した費用および損失については、補償を行わない旨
- ・損失の一部を役員自身の負担とする旨

③ 役員等賠償責任保険契約に関する事項

当社は、保険会社との間で、当社ならびに当社の取締役、監査役、執行役員、管理職従業員^(※1)および社外派遣役員^(※2)を被保険者^(※3)として、被保険者に対して損害賠償請求がなされたことにより被保険者が被る損害等（法律上の損害賠償金、争訟費用等）を填補することを目的とする保険契約を本年1月に締結しております。

(※1) 取締役会決議により選任される基本組織長等の重要な使用人。

(※2) 当社の指示等に基づき、社外法人において会社法上の取締役、執行役、監査役または会計参与の地位（これらと同等とされる地位を含みます。）にある者。

(※3) 1992年1月25日以降に被保険者となる地位を退任・退職した者および保険期間中に新たに被保険者となる地位に就任した者を含みます。

当社は、当該保険契約によって被保険者の職務の執行の適正性が損なわれないようにするため、当該保険契約において主に以下の事項を定めております。

- ・保険期間中における保険金の総支払限度額
- ・私的な利益または便宜の供与を違法に得たことや犯罪行為等に起因する損害等については、保険金が支払われない旨
- ・損害の一部を被保険者自身の負担とする旨

なお、当該保険契約の保険料は、当社が全額負担しております。

④ 社外役員に関する事項

(1) 主な活動状況

社外役員の主な活動状況は、下表のとおりであります。

社外取締役には、取締役会の一員として意思決定に参画いただくとともに、その経験・識見等に基づき、独立した立場から業務執行取締役の職務の執行を監視・監督いただくことを期待しており、取締役会や任意の諮問委員会への出席・発言等を通じて、その役割を適切に果たしていただいております。

地位	氏名	出席状況および発言状況
取締役	宮原 秀夫	12回開催された取締役会に12回出席しております。組織運営についての豊富な経験と幅広い識見を活かし、また社外取締役としての独立した立場から、適宜発言がありました。
取締役	村尾 和俊	12回開催された取締役会に12回出席しております。企業経営・組織運営についての豊富な経験と幅広い識見を活かし、また社外取締役としての独立した立場から、適宜発言がありました。
取締役	来島 達夫	2020年6月26日の当社取締役就任後、10回開催された取締役会に10回出席しております。企業経営・組織運営についての豊富な経験と幅広い識見を活かし、また社外取締役としての独立した立場から、適宜発言がありました。
監査役	木村 陽子	12回開催された取締役会に12回出席し、また13回開催された監査役会に13回出席しております。組織運営についての豊富な経験と幅広い識見を活かし、また社外監査役としての独立した立場から、適宜発言がありました。
監査役	八田 英二	12回開催された取締役会に12回出席し、また13回開催された監査役会に13回出席しております。組織運営についての豊富な経験と幅広い識見を活かし、また社外監査役としての独立した立場から、適宜発言がありました。
監査役	佐々木 茂美	12回開催された取締役会に12回出席し、また13回開催された監査役会に13回出席しております。法曹実務家としての豊富な経験と専門的知見を活かし、また社外監査役としての独立した立場から、適宜発言がありました。

(2) 責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項および定款の規定により、社外取締役および社外監査役全員との間で、会社法第423条第1項の損害賠償責任について、法令に定める最低責任限度額を限度とする契約を締結しております。

⑤ 取締役および監査役の報酬等

(1) 取締役の個人別の報酬等の内容についての決定に関する方針に関する事項

当社は、取締役の個人別の報酬等の内容についての決定に関する方針（以下「報酬決定方針」といいます。）を社外取締役が過半数を占める任意の諮問委員会での審議を経たうえで、取締役会の決議により定めており、その概要は、下表^(※)のとおりであります。

(※) 本年6月開催の第203回定時株主総会の第4号議案「株式報酬付与のための取締役報酬上限額等の決定および改定の件」が原案どおり承認可決されることを条件として定めた株式報酬導入後の報酬決定方針を記載しており、株式報酬導入前の現行の報酬決定方針との相違点は注釈に記載のとおりであります。

なお、取締役および監査役に対する退職慰労金については、廃止しております。

報酬決定方針（株式報酬導入後）

基本的な考え方

取締役の報酬は、持続的な成長と中長期的な企業価値向上の実現に対する取締役の意欲を高める報酬体系とする。社外取締役以外の取締役の報酬は、固定報酬としての基本報酬、業績連動報酬および株式報酬^(※1)とし、業務執行から独立した立場である社外取締役は、固定報酬としての基本報酬のみとする。

取締役の報酬は、客観性を確保し決定プロセスの透明性を図る観点から、社外取締役が過半数を占める任意の諮問委員会での審議を経たうえで、株主総会で承認された報酬総額の範囲内において決定する。

基本報酬

基本報酬は、金銭による月例の報酬とする。その金額は、取締役会の決議により定める規則に従い、各取締役の地位および担当、世間水準等を踏まえて決定する。

業績連動報酬

業績連動報酬は、金銭による月例の報酬とする。その金額は、短期および中長期的な企業価値向上に資することを目的として、直近3か年の親会社株主に帰属する当期純利益を主な指標として決定する。

株式報酬

中長期的な企業価値向上と報酬の連動性を高め、株主との一層の価値共有を進めるため、譲渡制限付株式を、毎年、一定の時期に付与する。付与する株式の個数は、各取締役の役位、職責、株価等を踏まえて決定する。^(※1)

報酬毎の割合

社外取締役以外の取締役は、基本報酬、業績連動報酬、株式報酬^(※1)の比率の目安を5:4:1^(※2)とする。社外取締役は、全額を基本報酬とする。

報酬の決定手続

取締役の個人別の報酬の内容は、取締役会の決議により定める規則に従い、任意の諮問委員会の審議を経たうえで、取締役会の決議により決定する。ただし、金銭報酬に係る内容は、取締役会の決議による委任に基づき、代表取締役社長が決定することができる。^(※3)

(※1) 現行の報酬決定方針では、下線部の記載はありません。

(※2) 現行の報酬決定方針では、下線部を「6:4」としております。

(※3) 現行の報酬決定方針では、下線部を「取締役会の決議による委任に基づき、代表取締役社長が決定する。」としております。

(2) 取締役の報酬等についての株主総会の決議に関する事項

取締役の報酬額は、1990年6月28日開催の第172回定時株主総会において月額63百万円以内（使用人兼務取締役の使用人分給与は含まない。）と決議されております。当該定時株主総会終結時点の取締役の員数は27名であります。

(3) 取締役の個人別の報酬等の内容についての決定の委任等に関する事項

当社は、取締役会の決議による委任に基づき、当時の代表取締役社長である本荘武宏が、当期における各取締役の報酬額、支給の時期および方法等を決定しております。会社業績を俯瞰しつつ、各業務執行取締役の職務の執行状況も踏まえて報酬の内容を決定するには、代表取締役社長による決定が適していると考えられるため、上記の権限を委任したものであります。

また、代表取締役社長の権限が適切に行使されるよう、上記の委任にあたっては、報酬決定方針および取締役会の決議により定める規則に従い、各取締役の地位および担当、世間水準、会社業績等を踏まえ、社外取締役が過半数を占める任意の諮問委員会での審議を経たうえで、各取締役の個人別の報酬額等を決定することとしております。当該手続を経て各取締役の個人別の報酬額等が決定されていることから、取締役会は当期における各取締役の個人別の報酬等の内容が報酬決定方針に沿うものであると判断しております。

(4) 監査役の報酬等についての株主総会の決議および報酬等の決定に関する事項

監査役の報酬額は、1994年6月29日開催の第176回定時株主総会において月額14百万円以内と決議されております。当該定時株主総会終結時点の監査役の員数は5名であります。

各監査役の報酬額は、この範囲内で、監査役の協議により決定することとしており、業績に左右されず独立した立場で取締役の職務の執行を監査する役割を担っていることから、固定報酬のみとし、各監査役の地位等を踏まえて決定いたします。

(5) 取締役および監査役の報酬等の額

区分	報酬等の総額（百万円）		対象となる役員の員数（名）
	固定報酬	業績連動報酬	
取締役（社外取締役を除く）	386	235	10
監査役（社外監査役を除く）	69	69	3
社 外 取 締 役	29	29	3
社 外 監 査 役	32	32	3

- (注) 1. 取締役の報酬等の総額は415百万円、監査役の報酬等の総額は102百万円、社外役員の報酬等の総額は62百万円となっております。
2. 取締役（社外取締役を除く）および監査役（社外監査役を除く）の報酬等の額および員数には、2020年6月26日開催の第202回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役4名分および監査役1名分を含んでおります。
3. 業績連動報酬の額は、固定報酬に、直近3か年の親会社株主に帰属する当期純利益を主な指標として算定した係数を乗じることなどにより算定しております。親会社株主に帰属する当期純利益の実績は、前記「I⑥財産および損益の状況」に記載のとおりであります。当該業績指標を選定した理由は、短期および中長期的な企業価値向上に向けた取締役の意欲向上に資すると判断したためであります。

Ⅲ 株式に関する事項 (2021年3月31日現在)

① 発行株式数と株主数

項目	内容
発行可能株式総数	700,000,000株
発行済株式の総数 ^(※)	416,680,000株
株主数	100,326名

(※) 自己株式920,065株を含んでおります。

② 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	33,787	8.13
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	20,631	4.96
日本生命保険相互会社	19,242	4.63
株式会社日本カストディ銀行 (信託口7)	11,561	2.78
株式会社三菱UFJ銀行	11,188	2.69
株式会社りそな銀行	10,555	2.54
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	6,320	1.52
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	5,973	1.44
明治安田生命保険相互会社	5,838	1.40
J P モルガン証券株式会社	5,569	1.34

(注) 持株比率の算定にあたっては、発行済株式の総数から自己株式の数を除いております。

IV | 会計監査人の状況

① 会計監査人の名称

有限責任あずさ監査法人

② 会計監査人の報酬等

(1) 当期に係る会計監査人の報酬等の額

区分	監査証明業務に基づく報酬 (百万円)	非監査業務に基づく報酬 (百万円)
当 社	98 ^(※)	98
当 社 子 会 社	144	19
合 計	243	117

(※) 当社と会計監査人との間の監査契約においては、会社法に基づく監査報酬額と金融商品取引法に基づく監査報酬額とを区分しておらず、かつ、実質的にも区分できないため、金額はこれらの合計額で記載しております。

(2) 会計監査人の報酬等について監査役会が同意をした理由

監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況および報酬見積りの算出根拠等を確認し、審議した結果、会計監査人の報酬等が適切であると判断し、会社法第399条第1項の同意を行っております。

③ 非監査業務の内容

当社は、会計監査人に対して、組織再編（吸収分割）に係る会計・税務面の専門的見地からの助言の提供等を委託し、対価を支払っております。

④ 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号のいずれかに該当するときは、監査役の全員の同意により解任いたします。また、監査役会は、会計監査人の適格性、専門性、独立性等を総合的に評価し、会計監査人がその職務を適切に遂行することが困難と認められる場合には、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。

V 業務の適正を確保するための体制に関する事項

1. 内部統制システムの概要

当社は、取締役会において、当社の取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制その他当社グループの業務の適正を確保するために必要な体制（内部統制システム）について定めており、その概要は以下のとおりであります。

① 職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

- (1) 当社グループの取締役・従業員は、職務の執行の前提となる情報収集・事実調査を十分に行い、的確な事実認識のもと、職責権限に関する規程に基づき、合理的な判断を行う。
- (2) 業務執行取締役は、取締役会における適正な意思決定に資するとともに、監督機能の充実を図るため、独立性を有する社外役員を確保する。また、取締役会の監督機能の充実を図るとともに、効率的な業務執行の体制を確立するため、執行役員制度を採用する。
- (3) 業務執行取締役は、社長および取締役会の判断に資することを目的として経営会議を設け、経営の基本方針および経営に関する重要な事項について審議する。
- (4) 業務執行取締役は、「DaigasグループCSR憲章」^(※)を踏まえて、「Daigasグループ企業行動基準」を定め、当社グループの取締役および従業員にこれを周知徹底することにより、当社グループにおける法令・定款に適合した職務の執行の確保はもとより、公正で適切な事業活動（環境保全への貢献、社会貢献活動の推進、反社会的勢力との関係遮断等を含む。）を推進する。
(※)「DaigasグループCSR憲章」は、本年4月1日より「Daigasグループ企業行動憲章」となりました。
- (5) 業務執行取締役は、内部通報制度である相談・報告制度とESG推進委員会の設置により、当社グループにおけるコンプライアンスに係る状況の把握とコンプライアンスの推進に努める。
- (6) 当社グループの取締役・従業員は、コンプライアンスに係る問題を発見したときは、事案の重大性・緊急性に応じ、業務執行取締役もしくは上長に相談・報告するか、または相談・報告制度により報告する。業務執行取締役、総務部長または上長は、その内容を調査し、所要の改善措置を講じる。

② 職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

- (1) 当社グループの業務執行取締役・従業員は、職責権限に関する規程に基づき、判断要素、判断過程等を明記した取締役会議事録、稟議書等を作成する。
- (2) 当社グループの業務執行取締役・従業員は、取締役会議事録、稟議書その他の職務の執行に係る情報を、情報の特性に応じて、適切に保存し、管理する。

③ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- (1) 業務執行取締役は、製造・供給設備の工事、維持および運用に関する事項について保安規程を定めるとともに、製造供給体制の整備を推進することなどにより、ガス事業における保安の確保と安定供給に万全を期す。

- (2) 当社グループの業務執行取締役・当社の基本組織長（当社の基本的組織単位の長）は、リスク（外的要因による危険、内的要因による危険、外部者との取引等に伴う危険）ごとに、リスク発生の未然防止、または発生した場合の損失の最小化のための対応策を講じ、損失の危険の管理を行う。
- (3) 損失の危険の管理は、各基本組織および各関係会社を基本単位とし、基本単位の長は、損失の危険の管理を推進し、定期的にその有効性の確認作業を実施する。
- (4) 当社グループの経営に特に重要な影響を与える可能性がある緊急非常事態への対応は、災害対策に関する規程および事業継続計画による。

④ 職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- (1) 当社グループの業務執行取締役・当社の基本組織長は、職責権限に関する規程により、当社・当社グループにおける業務分担と意思決定に関する事項を定める。また、組織等の制度内容や職務の遂行に際しての一般的な遵守事項について規程等を定め、これらを周知徹底することにより、円滑な組織運営、業務の品質向上・効率化を図る。
- (2) 当社グループの業務執行取締役・当社の基本組織長は、企業価値の最大化を目的として、当社・当社グループの中期経営計画と単年度計画を定めるとともに、業績管理指標により達成状況をフォローし、計画達成に向けて注力する。

⑤ 業務の適正を確保するためのその他の体制

前記各事項に加えて、業務執行取締役は、次の措置を講じるとともに、適正な運用に努める。

- (1) 当社グループの各事業分野において中心的役割を担う会社（中核会社）または関係会社を管理する基本組織（経営サポート組織）を定め、関係会社の日常的な経営管理を行う。
- (2) 当社グループ全体の法令・定款適合性や効率性等について、当社の監査部長が内部監査を行う。その監査結果を受けて必要がある場合には、速やかに改善措置を講じる。
- (3) 財務報告の信頼性を確保するため、これに係る内部統制の整備、運用および評価を行う。

⑥ 監査役職務を補助すべき使用人に関する事項

- (1) 業務執行取締役は、監査役求めがあれば、従業員を監査役職務の補助に従事させ、監査役補助者が所属する監査役室を設置する。
- (2) 監査役補助者は、監査役職務の補助に専従する。

⑦ 監査役補助者の取締役からの独立性に関する事項

- (1) 業務執行取締役は、全従業員に等しく命ずべき職務を除き、監査役補助者を指揮命令できない。
- (2) 業務執行取締役は、監査役補助者の人事考課、異動等を行う場合、事前に監査役の意見を徴し、これを尊重する。

⑧ 監査役への報告に関する体制

- (1) 取締役は、当社に著しい損害を及ぼす事実を発見したときは、直ちに監査役に報告する。

- (2) 当社グループの取締役、従業員または関係会社の監査役は、当社グループの経営に重大な影響を及ぼす事項、内部監査の結果、相談・報告制度の主な通報状況、その他重要な事項を、遅滞なく監査役に報告する。
- (3) 当社グループの取締役・当社の従業員は、監査役から職務の執行に関する事項について報告を求められたときは、遅滞なく報告する。
- (4) 当社グループの業務執行取締役・上長は、前各項に基づき監査役への報告を行った者に対して、当該報告を行ったことを理由とする不利な取扱いを行わない。

⑨ 監査役が実効的に行われることを確保するためのその他の体制

- (1) 監査役は、代表取締役、会計監査人と定期的に意見交換できる。
- (2) 監査役は、経営会議および全社委員会に出席でき、稟議書等の職務の執行に係る重要な情報を適時に調査できる。
- (3) 業務執行取締役は、監査役の職務の執行に必要な費用または債務を会社として負担する。

⑩ 運用状況の確認等

- (1) 業務執行取締役は、内部統制システムの運用状況の確認および評価を定期的に行い、その結果を取締役会に報告する。
- (2) 業務執行取締役は、内部統制システムの評価結果、その他の状況を勘案し、必要に応じ、所要の措置を講じる。

2. 内部統制システムの運用状況の概要

当社は、内部統制システムの運用状況について、各事項の確認項目を設け、関係する組織長等から報告を受けることにより定期的に確認しており、本年4月23日開催の取締役会において、内部統制システムが適切に運用されている旨の報告をしております。

当期における内部統制システムの運用状況の概要は、以下のとおりであります。

① コンプライアンスに関する事項

ESG推進委員会は、コンプライアンス・リスク管理部会、環境部会、社会貢献部会を設置し、各分野における取り組みをより一層推進しております。

「Daigasグループ企業行動基準」に関して、気候変動対策や腐敗防止など昨今の外部環境の変化やビジネス領域の広がり等を踏まえた改定を実施しております。

また、「Daigasグループ企業行動基準」およびその解説等を内容とする教材をイントラネットに常時掲示することなどにより、当社グループの取締役および従業員に対し周知し、理解促進と定着を図っております。

相談・報告制度に関しては、制度のさらなる理解と利用の促進を図るため、ポスターの掲示による周知を行うとともに、イントラネット等を通じてコンプライアンスの考え方や制度に関する解説を実施しております。

② リスク管理に関する事項

基本組織長・関係会社社長は、損失の危険の管理を推進し、定期的にはリスクマネジメントの点検を実施しております。各基本組織および各関係会社においては、リスクマネジメントの自己点検をシステム化した「G-RIMS (Gas Group Risk Management System)」等を活用して、リスクの把握、対応状況の点検とフォロー等を実施しております。

国内外での新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえ、対策本部を設置して当社グループにおける対応状況を確認するとともに、感染症対策等を適宜実施しております。

保安・防災等のグループに共通するリスク管理に関しては、主管組織を明確にし、各基本組織と各関係会社をサポートすることで、グループ全体としてのリスクマネジメントに取り組んでおります。

緊急非常事態に対する備えとして、災害対策に関する規程および事業継続計画を整備しております。地震訓練とBCP訓練から成る全社総合防災訓練を実施しており、当期においては、感染症拡大下の災害発生を想定して実施するとともに、ガス導管事業者とガス小売事業者との連携を図る災害時連携教育・訓練をリモートで実施しております。

サイバーセキュリティ委員会は、当社グループネットワーク外からの攻撃への対策を一層強化しております。

③ 当社グループにおける経営管理に関する事項

中核会社または経営サポート組織が管理する関係会社を定め、関係会社から定期報告や重要事項についての報告を受けて経営課題を把握するとともに、G-RIMSの活用や監査の実施等により、日常的な経営管理を行っております。

内部監査部門である監査部は、各組織および各関係会社を対象に計画的な内部監査を実施するとともに、内部監査実施から一定期間経過後のフォローアップを実施しております。

④ 監査役の監査の実効性に関する事項

常勤監査役は、代表取締役会長、代表取締役社長および会計監査人と定期的に意見交換を行っており、社外監査役も適宜参加しております。監査役は、会計監査人との意見交換の機会も活用し、その適格性、専門性、独立性等を評価しております。

常勤監査役は、経営会議、ESG推進会議、投資評価委員会等の重要会議に出席し、稟議書等の重要文書を閲覧しております。また、取締役会における内部統制システムの決議において、監査役への報告を要する事項を明確にし、周知を行っております。

監査役の職務の補助に専従する監査役補助者を4名配置しております。

以上

連結計算書類

連結貸借対照表 (2021年3月31日現在)

(単位：百万円)

資産の部		
固 定 資 産		1,730,009
有 形 固 定 資 産		1,070,610
製 造 設 備		89,701
供 給 設 備		268,755
業 務 設 備		53,481
そ の 他 の 設 備		546,456
建 設 仮 勘 定		112,215
無 形 固 定 資 産		97,912
投 資 そ の 他 の 資 産		561,487
投 資 有 価 証 券		377,074
長 期 貸 付 金		25,686
退 職 給 付 に 係 る 資 産		83,494
繰 延 税 金 資 産		25,933
そ の 他		50,099
貸 倒 引 当 金		△800
流 動 資 産		583,347
現 金 及 び 預 金		167,083
受 取 手 形 及 び 売 掛 金		211,696
リ ー ス 債 権 及 び リ ー ス 投 資 資 産		54,634
た な 卸 資 産		94,187
そ の 他		56,349
貸 倒 引 当 金		△602
資 産 合 計		2,313,357

(単位：百万円)

負債の部		
固 定 負 債		875,975
社 債		354,995
長 期 借 入 金		333,263
繰 延 税 金 負 債		41,845
ガ ス ホ ル ダ ー 修 繕 引 当 金		1,138
保 安 対 策 引 当 金		8,892
器 具 保 証 引 当 金		12,195
退 職 給 付 に 係 る 負 債		18,758
そ の 他		104,886
流 動 負 債		322,784
1年以内に期限到来の固定負債		71,981
支 払 手 形 及 び 買 掛 金		60,453
未 払 法 人 税 等		27,514
そ の 他		162,834
負 債 合 計		1,198,759
純資産の部		
株 主 資 本		1,011,530
資 本 金		132,166
資 本 剰 余 金		19,469
利 益 剰 余 金		861,746
自 己 株 式		△1,852
そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額		70,350
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金		69,811
繰 延 ヘ ッ ジ 損 益		△30,365
土 地 再 評 価 差 額 金		△737
為 替 換 算 調 整 勘 定		△2,383
退 職 給 付 に 係 る 調 整 累 計 額		34,025
非 支 配 株 主 持 分		32,716
純 資 産 合 計		1,114,597
負 債 純 資 産 合 計		2,313,357

■連結損益計算書 (2020年4月1日から2021年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目			
売	上	高	1,364,106
売	上	原 価	921,777
(売 上 総 利 益)			(442,328)
供給販売費及び一般管理費			329,836
(営 業 利 益)			(112,491)
営 業 外 収 益			32,941
	受 取 利 息		2,348
	受 取 配 当 金		3,378
	持分法による投資利益		13,618
	関係会社投資有価証券売却益		3,694
	雑 収 入		9,901
営 業 外 費 用			17,680
	支 払 利 息		11,087
	雑 支 出		6,593
(経 常 利 益)			(127,752)
特 別 損 失			19,016
	減 損 損 失		19,016
(税金等調整前当期純利益)			(108,735)
法人税、住民税及び事業税			33,302
法人税等調整額			△8,410
(当 期 純 利 益)			(83,844)
非支配株主に帰属する当期純利益			2,986
親会社株主に帰属する当期純利益			80,857

計算書類

貸借対照表 (2021年3月31日現在)

(単位：百万円)

資産の部			
固 定 資 産			1,345,329
有 形 固 定 資 産			428,061
製 造 設 備			88,768
供 給 設 備			268,913
業 務 設 備			52,644
附 帯 事 業 設 備			3,471
建 設 仮 勘 定			14,263
無 形 固 定 資 産			31,987
特 許 権			2
借 地 権			3,024
そ の 他 無 形 固 定 資 産			28,960
投 資 そ の 他 の 資 産			885,280
投 資 有 価 証 券			89,026
関 係 会 社 投 資			545,079
関 係 会 社 長 期 貸 付 金			199,390
出 資 金			21
長 期 前 払 費 用			5,446
前 払 年 金 費 用			35,253
そ の 他 投 資 金			11,372
貸 倒 引 当 金			△310
流 動 資 産			375,029
現 金 及 び 預 金			130,170
受 取 手 形			196
売 掛 金			95,899
関 係 会 社 売 掛 金			12,281
未 収 入 金			7,827
製 品			56
原 料			17,108
貯 蔵 品			11,486
前 払 金			6,685
関 係 会 社 短 期 債 権			79,939
そ の 他 流 動 資 産			13,634
貸 倒 引 当 金			△257
資 産 合 計			1,720,358

(単位：百万円)

負債の部			
固 定 負 債			593,198
社 長 期 借 入 債 金			354,995
関 係 会 社 長 期 債 務			189,132
繰 延 税 金 負 債			6,505
退 職 給 付 引 当 金			8,674
ガ ス ホ ル ダ ー 修 繕 引 当 金			2,520
保 安 対 策 引 当 金			1,045
器 具 保 証 引 当 金			8,892
そ の 他 固 定 負 債			12,195
流 動 負 債			9,236
流 動 負 債			294,717
1年以内に期限到来の固定負債			56,391
買 掛 金			25,775
未 払 金			22,688
未 払 費 用			41,307
未 払 法 人 税 等			16,801
前 預 り 金			9,354
関 係 会 社 短 期 債 務			1,791
そ の 他 流 動 負 債			118,181
負 債 合 計			2,425
負 債 合 計			887,916
純資産の部			
株 主 資 本			788,047
資 本 金			132,166
資 本 剰 余 金			19,494
資 本 準 備 金			19,482
そ の 他 資 本 剰 余 金			11
利 益 剰 余 金			638,238
利 益 準 備 金			33,041
そ の 他 利 益 剰 余 金			
特 定 資 産 買 換 等 圧 縮 積 立 金			241
海 外 投 資 等 損 失 準 備 金			12,607
投 資 促 進 税 制 積 立 金			299
原 価 変 動 調 整 積 立 金			89,000
別 途 積 立 金			62,000
繰 越 利 益 剰 余 金			441,048
自 己 株 式			△1,852
自 己 株 式			△1,852
評 価 ・ 換 算 差 額 等			44,394
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金			47,263
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金			47,263
繰 延 ヘ ッ ジ 損 益			△2,868
繰 延 ヘ ッ ジ 損 益			△2,868
純 資 産 合 計			832,442
負 債 純 資 産 合 計			1,720,358

■損益計算書 (2020年4月1日から2021年3月31日まで)

(単位：百万円)

費用	
売上原価	259,278
期首たな卸高	77
当期製品製造原価	265,772
当期製品自家使用高	6,515
期末たな卸高	56
(売上総利益)	(291,909)
供給販売費	208,703
一般管理費	51,929
(事業利益)	(31,276)
営業雑費用	107,251
受注工事費用	21,328
その他営業雑費用	85,923
附帯事業費用	365,924
(営業利益)	(60,496)
営業外費用	8,865
支払利息	3,818
社債利息	3,187
社債発行費償却	398
雑支出	1,460
(経常利益)	(73,035)
(税引前当期純利益)	(73,035)
法人税等	17,700
法人税等調整額	694
当期純利益	54,641
合計	1,074,989

(単位：百万円)

収益	
ガス事業売上高	551,187
ガス売上	514,051
託送供給収益	35,143
事業者間精算収益	959
受託製造収益	1,032
営業雑収益	123,438
受注工事収益	22,109
その他営業雑収益	101,329
附帯事業収益	378,958
営業外収益	21,404
受取利息	1,867
有価証券利息	23
受取配当金	1,637
関係会社受取配当金	5,647
関係会社投資有価証券 売却却益	3,055
受取賃貸料	2,432
雑収入	6,740
合計	1,074,989

連結計算書類に係る会計監査人の会計監査報告

独立監査人の監査報告書

2021年5月14日

大阪瓦斯株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人
大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 原 田 大 輔 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 辻 井 健 太 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 重 田 象 一 郎 ㊞

監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、大阪瓦斯株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大阪瓦斯株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

連結計算書類に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

会計監査人の会計監査報告

独立監査人の監査報告書

2021年5月14日

大阪瓦斯株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人
大阪事務所

指定有限責任社員 公認会計士 原 田 大 輔 ㊞
業 務 執 行 社 員

指定有限責任社員 公認会計士 辻 井 健 太 ㊞
業 務 執 行 社 員

指定有限責任社員 公認会計士 重 田 象 一 郎 ㊞
業 務 執 行 社 員

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、大阪瓦斯株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの第203期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

強調事項

重要な後発事象に関する注記に記載されているとおり、会社は2021年4月23日開催の取締役会の決議に基づき、同日付で大阪ガスネットワーク株式会社との間で吸収分割契約を締結した。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

監査役会の監査報告

監 査 報 告 書

当監査役会は、2020年4月1日から2021年3月31日までの第203期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査方針、監査計画等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査方針、監査計画等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図りながら、以下の方法で監査を実施いたしました。
 - ① 取締役会その他重要な会議に出席するほか、随時、取締役及び使用人等からその職務の執行状況を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通を図り、必要に応じて子会社に赴き業務及び財産の状況を調査いたしました。
 - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
 - ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを調査するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（金融庁・企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びこれらの附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

- (1) 事業報告等の監査結果
 - ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
 - ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
 - ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。
- (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果
会計監査人有限責任あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。
- (3) 連結計算書類の監査結果
会計監査人有限責任あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2021年5月20日

大阪瓦斯株式会社 監査役会

監査役（常 勤） 藤 原 敏 正 ㊟
 監査役（常 勤） 米 山 久 一 ㊟
 監査役（社外監査役） 木 村 陽 子 ㊟
 監査役（社外監査役） 八 田 英 二 ㊟
 監査役（社外監査役） 佐々木 茂 美 ㊟

(ご参考) Daigasグループ 中期経営計画2023 「Creating Value for a Sustainable Future」の概要

(1) 中期経営計画2023の位置付け

持続可能な社会の実現に向け、社会課題の解決に資する価値を生み出す企業グループとして、“ステークホルダーとともに「ミライ価値」を創造し、成長し続けていく”期間（2021～2023年度）とする。

(2) 重点戦略

I. ミライ価値の共創

社会課題解決に向けた価値創造を追求し、ステークホルダーとともに実現

1. 低・脱炭素社会の実現
2. Newノーマルに対応した暮らしとビジネスの実現
3. お客さまと社会のレジリエンス向上

II. 企業グループとしてのステージ向上

強靱な事業ポートフォリオ構築と進化を支える経営基盤の強化

1. 事業ポートフォリオ経営の進化
2. デジタルトランスフォーメーションによる事業変革
3. 従業員一人ひとりの価値の最大化

2023年度への成長 ROIC 5%程度、営業CF 1.5倍^(※)、利益成長に応じた株主還元

(※) 2021～2023年度の3か年累計計画 ÷ 2018～2020年度の3か年累計見通し

(3) 経営指標

		2023年度 計画
収益性指標	ROIC ^(※1)	5%程度
株主還元	配当性向	30%以上 ^(※2)
財務健全性指標	D/E比率 ^(※3)	0.7程度
	自己資本比率 ^(※3)	50%程度

(※1) ROIC=(経常利益-支払・受取利息-法人税等)÷(有利子負債+自己資本)
有利子負債は、当社にリスクのないリース負債を除く
国内エネルギー事業における一時的な影響を除く
(ガス事業・電力事業のタイムラグ影響)

(※2) 短期的な利益変動要因を除く


(※3) 発行済ハイブリッド社債の資本性50%を調整

(4) 重点取り組み

ミライ価値の共創

<p>1. 低・脱炭素社会の実現</p>	<p>CO2排出削減貢献により低炭素化を加速させつつ、都市ガス原料や電源の脱炭素化により、2050年のカーボンニュートラルに向けて挑戦し、低・脱炭素社会の実現を目指す^(※)。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: right;">再生可能エネルギー普及貢献</td> <td style="text-align: right;">500万kW</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">(2030年度目標) 国内電力事業の再生可能エネルギー比率</td> <td style="text-align: right;">50%程度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">CO2排出削減貢献</td> <td style="text-align: right;">1,000万トン</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ● 国内外における再生可能エネルギー普及貢献の拡大 ● 革新的なメタネーション技術の開発や、様々なパートナーとの連携 など 	再生可能エネルギー普及貢献	500万kW	(2030年度目標) 国内電力事業の再生可能エネルギー比率	50%程度	CO2排出削減貢献	1,000万トン
再生可能エネルギー普及貢献	500万kW						
(2030年度目標) 国内電力事業の再生可能エネルギー比率	50%程度						
CO2排出削減貢献	1,000万トン						
<p>2. Newノーマルに対応した暮らしとビジネスの実現</p>	<p>お客さまごとに最適なサービス・ソリューションを開西・国内広域・海外へ展開することで、変化の中でのNewノーマルに対応した暮らしとビジネスの実現を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● DXによる最適な個客体験の実現（ライフサービスプラットフォームのご提供） ● 暮らしやビジネスの変化に寄り添ったサービス・ソリューションの拡大 など 						
<p>3. お客さまと社会のレジリエンス向上</p>	<p>インフラの強靱化とともに、分散型電源などと組み合わせたエネルギーネットワークの普及拡大を進め、平時および災害時のさらなるレジリエンスを向上し、さらに国内広域・アジア等の新興国においても広く貢献していくことを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● LNG基地やネットワーク業務における生産性向上 ● 再生可能エネルギーと分散型電源とのベストミックスによる系統安定化への貢献 など 						

企業グループとしてのステージ向上

<p>1. 事業ポートフォリオ経営の進化</p>	<p>ROICの導入等を通じて各事業ユニットの稼ぐ力を向上させるとともに、事業ポートフォリオのマネジメント強化、ガバナンス向上に取り組む。</p>
<p>2. デジタルトランスフォーメーションによる事業変革</p>	<p>お客さまとのつながり・あらゆる業務でのデジタル化と業務改革を進めることで、事業そのものの変革とイノベーション創出につなげる。</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>データ資産のフル活用 グループ総合力・アライアンス トップダウンによるDX推進体制 デジタル人材の育成・増強 システム刷新・セキュリティ強化</p> </div>
<p>3. 従業員一人ひとりの価値の最大化</p>	<p>多様な人材が多様な働き方を通じて活躍し、“挑戦を通じた成長”と“社会課題解決を通じたやりがい”を実感できる組織づくりを推進する。</p>

(※) 当社グループはこれまでの天然ガス利用拡大の取り組みに加えて、再生可能エネルギーや水素を利用したメタネーション等による都市ガス原料の脱炭素化、および再生可能エネルギー導入を軸とした電源の脱炭素化によって、2050年のカーボンニュートラル実現を目指しており、当社は、その実現に向けた取り組みを示した「カーボンニュートラルビジョン」を策定しております。詳細は、当社ウェブサイト (https://www.osakagas.co.jp/company/csr/beginning/carbon_neutral_vision.html) をご覧ください。

株式伝言板

1 | 単元未満株式の買取請求・買増請求のご案内

証券取引所での株式の売買単位は単元株式数とされており、単元未満株式（100株未満の株式）は証券取引所で売買することができませんので、単元未満株式の買取請求制度・買増請求制度をご利用ください（手数料無料）。

買取請求制度とは

株主さまが単元未満株式を、当社に対して時価で売り渡す制度です。

買増請求制度とは

証券取引所での売却が可能となるように、株主さまが単元未満株式を一単元の株式にするために必要な株式を、当社から株主さまに時価で売り渡す制度です。

- (注) 1. 単元未満株式の買取請求・買増請求は、特別口座（株券電子化までに株券を証券会社等に預け入れていない株主さまの権利を保護するため、当社が三井住友信託銀行株式会社に開設した口座）の株式についても、証券会社等の口座に移し替えることなく行うことができます。
2. 当社は、単元未満株式の買取請求・買増請求に係る手数料を無料としておりますが、証券会社等の口座管理機関が手数料を定めている場合があります。

2 | 配当金の受取方法のご案内

配当金領収証により現金で受け取る以外に、次の受取方法をご指定いただけます。いずれも、安全、確実、迅速な受取方法であり、これらの方法をお勧めします。

- ① 銀行預金口座への振込
- ② ゆうちょ銀行の貯金口座への振込
- ③ 「登録配当金受領口座方式」での受け取り
(株主さまが保有する全ての銘柄の配当金を、株主さまが指定する一つの預金口座で受け取る方法)
- ④ 「株式数比例配分方式」での受け取り
(株主さまの株式を管理する証券会社等の口座管理機関ごとに、株式数に応じて配当金を受け取る方法)

- (注) 1. ③の方法につきましては、ゆうちょ銀行の貯金口座はご指定いただけません。
2. (他の銘柄を含めて)特別口座の株式を保有されている場合には、④の方法はご指定いただけません。
3. NISA口座の株式の配当金等を非課税にするためには、④の方法をご指定いただく必要があります。
4. 配当金領収証の払渡期間が経過していても、支払開始の日から10年以内であれば、三井住友信託銀行株式会社において配当金をお受け取りいただけます。

3 | 「マイナンバー」お届出のお願い

市区町村から株主さまに通知されたマイナンバーは、株式の税務関係の手續^(※)が必要となります。
お届出がお済みでない株主さまは、お取引の証券会社等の口座管理機関へお届出ください。

(※) 法令に基づき、当社が作成する支払調書（配当金や単元未満株式の買取請求等に関する支払調書）に株主さまのマイナンバーを記載し、税務署へ提出する必要があります。

・ 1、2の手續の詳細の
お問い合わせ先

・ 3のマイナンバーの
お届出先・お届出用紙の
ご請求等のお問い合わせ先

証券会社等の口座の株式：お取引の証券会社等の口座管理機関

特別口座の株式：三井住友信託銀行株式会社

証券代行部 ( 0120-782-031)

(受付時間：土・日・祝祭日を除く午前9時～午後5時)

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日

定時株主総会開催月 6月

株主名簿管理人および特別口座管理機関

三井住友信託銀行株式会社

(同連絡先) 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  0120-782-031

(受付時間：土・日・祝祭日を除く午前9時～午後5時)

公告の方法

電子公告

(公告掲載アドレス <https://www.osakagas.co.jp/index.html>)

ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

UD
FONT



この印刷物は、見やすいユニバーサルデザインフォントを採用し、
環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。

大阪ガス株式会社

〒541-0046
大阪市中央区平野町四丁目1番2号
TEL 06-6202-2955